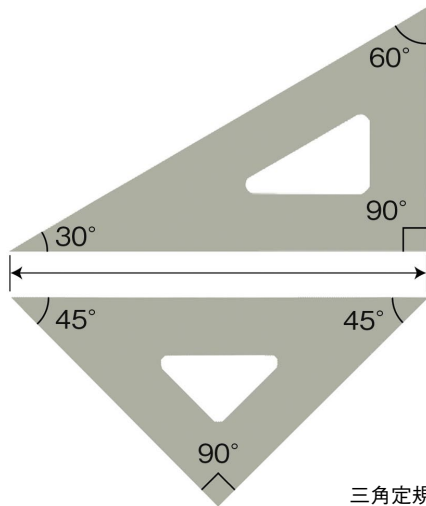
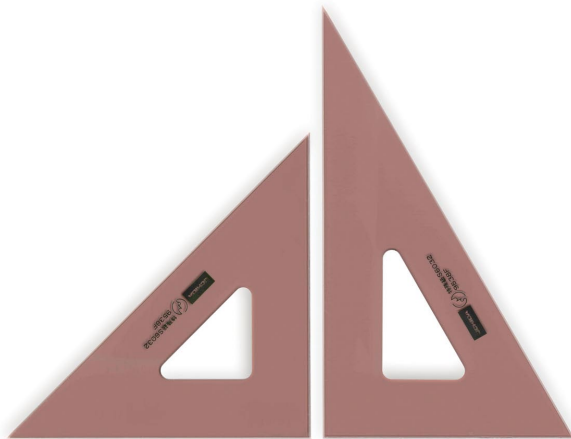


# 三角定規

さんかくじょうぎ



三角定規の角度

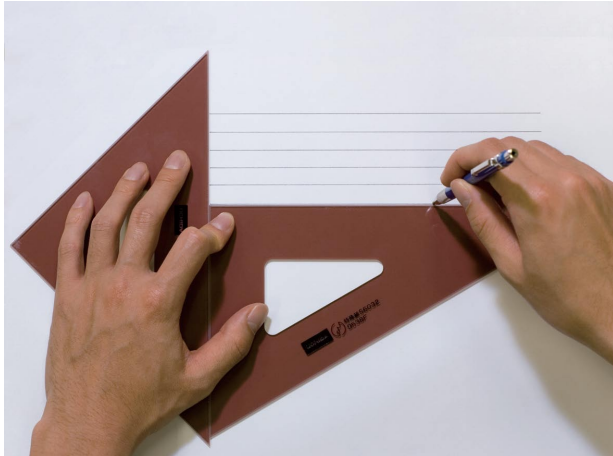
## 概要

三角定規は、平行線や垂直線、角度の付いた線を正確に引くための製図用具です。通常、角度の違う2枚の直角三角形の板が1組となっています。1枚は、それぞれの角が90° 60° 30°で、もう1枚は90° 45° 45°の二等辺三角形になっています。目盛は付いているものと、付いていないものがあり、プラスチックやアクリルでできた透明な製品には、方眼が入っているものもあります。材質は他に、ステンレス製や木製のものがあります。大きさは様々で、製図用としては10cm程度のものから40cm程度のもので一般的です。より大きなものは、小学校の授業で黒板に線を引く時などによく使用されています。三角定規を使って水平・垂直線を引く時は、この2枚の定規を組み合わせて使用します。同様に2枚の組み合わせによって、30° 45° 60° 90°の角度を活用した斜線も引くことができます。(T定規と組み合わせて使用することもできます。)例えば平行線を引く場合は、2つの定規をしっかりと固定し(図版の写真を参照)、右側の定規は上から下方向に移動させ、線は左から右方向に引いていきます。

三角定規は、明治時代初期には「三角規」という名称で文献に登場し、当時は主に直角を見ることが目的だったようです。そのため直角部分以外の角はまちまちでしたが、明治中期には、現在のような90° 60° 30°と90° 45° 45°の2枚の組み合わせによって、水平・垂直・斜線を引く目的で利用されていたようです。

三角定規の他に、見た目が似ていて、同じく角度の付いた線を引くことのできる定規として、勾配定規があります。分度器の付いた目盛板で接続された、可動式の2枚の三角形の板からできており、この2枚の角度を目盛で調節しながら使用します。三角定規だけでも、角の組み合わせでいろいろな角度を作ることができますが、この勾配定規を使用すると、任意の角度の線を引くことができます。また勾配定規を使って角度を測定することもできます。この他に製図以外の目的の三角定規には、海図を読むための航海用三角定規があります。三角定規や勾配定規は、文具店や画材店、製図用品を取り扱うお店で購入できます。

## 使用例 三角定規を使って平行線を引く



両方の三角定規をしっかりとさえます。右側の三角定規は上から下方向に移動させ、線は左から右に引きます。

